

①未来に引き継ぐ環境

環境負荷の低い産業活動が一般的となり、リサイクルが暮らしに根付いてゼロエミッションが達成されており、地球に優しい生活が普及している。

2040年の生活シーン

<プロフィール>

- 小学校6年生の女の子。丹波地域の地方都市で父、母、小学校2年生の弟の4人で暮らしている。
- 山間の集落に住んでいるおじいちゃんとおばあちゃんのところには畑があって、遊びに行ったときにもらう野菜が大好き。将来の夢は、野菜を使った美味しい料理やお菓子を出すレストランを開くこと。

<リサイクルが根ざした暮らし>

- 今日は休日なので、ケーキを作ろうと、材料を買いにスーパーに来た。お店の入口にあるデポジット制容器の回収機に、家から持って来たアルミ缶とペットボトルを入れると、お金が返ってきた。リサイクルしやすいように、容器の形や大きさを揃えるようにしているそう。
- お買い物はほとんどが量り売り、バラ売りだ。小麦粉とナッツを量って袋に入れると、シートが出てきて、それに量と値段が書いてある。オレンジジュースのコーナーで、持って来たビンにジュースを詰めて、あとはオレンジを2つ取ってからレジに持っていった。
- 家に帰ると、お父さんが私と弟の着られなくなった服や、読み終わった本を整理していた。いらなくなった物を売るためのお知らせをするホームページがあって、誰でも無料で利用できる。「これからホームページに載せるための写真を撮るんだ」、と忙しそう。
- ケーキには、先週おじいちゃんとおばあちゃんの畑のお手伝いをしたときに貰ったカボチャも使った。皮と種は生ごみボックスに入れる。レストランで食べ残したものを入れてもらった容器も、植物からできているから一緒に入れて大丈夫。学校で習ったけど、みんなの家やお店、工場から集めた生ごみからバイオガスを発生させる施設があって、タクシーの燃料や公共施設の暖房に使っているんだって。
- 学校では、昔のごみの焼却場の写真も見た。今は、生ごみは全部リサイクルされるか、エネルギー源になってるから、燃やされてしまう生ごみはなくなっている。

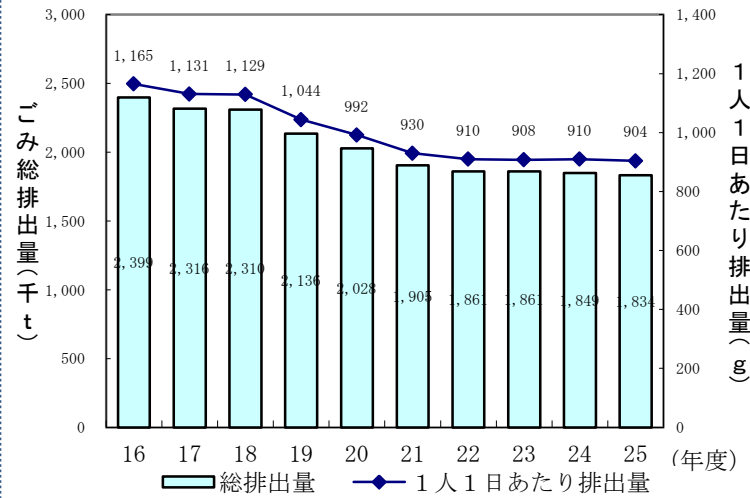
<温暖化防止>

- 日本のリサイクルシステムはとても進んでいるので、アジアやアフリカの国に教えてあげていて、そのおかげで地球温暖化に歯止めがかかっている。温室効果ガスの排出が実質ゼロとなるよう、世界中の国々が頑張っている。
- おばあちゃんは、地球温暖化が進むと、今作っている野菜が取れなくなってしまうかもしれない、と言っていた。そんなことになったら、私の野菜レストランが開けなくなって困る。私もリサイクルに取り組まなきゃ。まずは、新しいおもちゃを次々に欲しがる弟によく言い聞かせよう。

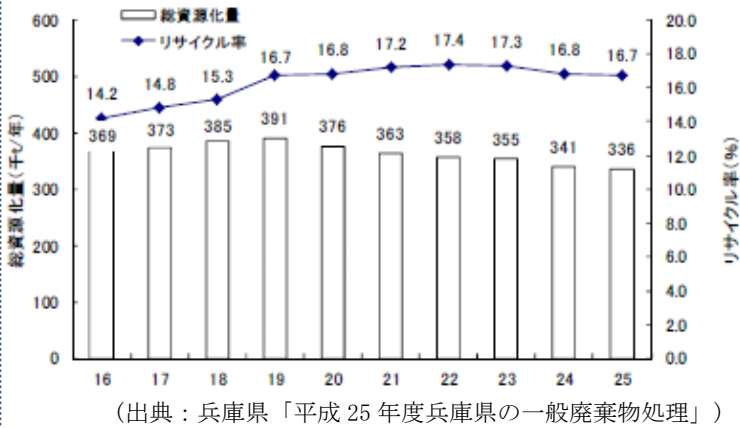
## 現状や課題

### 【一般廃棄物の排出と処理状況（県）】

#### ○ごみ排出量の推移



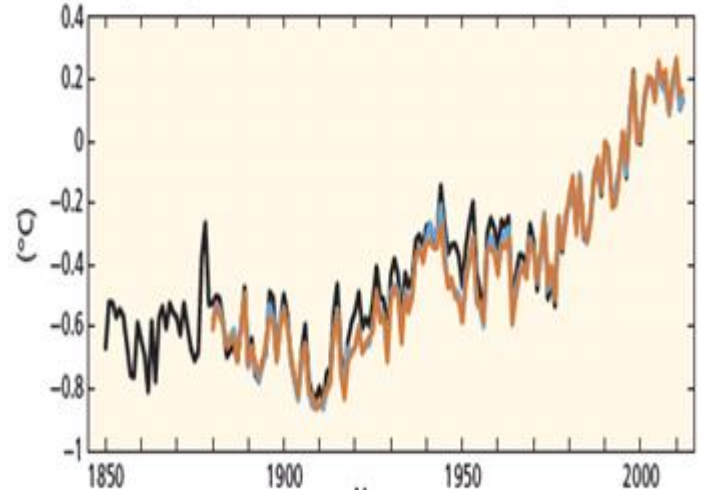
#### ○総資源化量とリサイクル率の推移



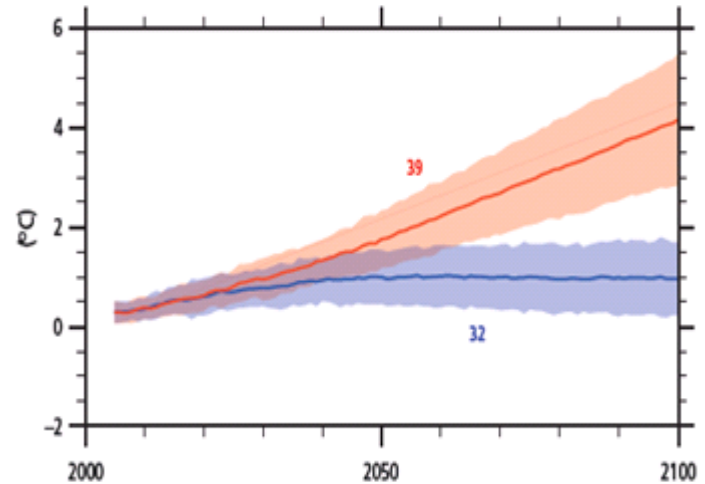
### 【地球温暖化】

#### ○温暖化の現況と将来予測

[1986-2005 年平均に対する世界平均地上気温（陸域+海上）の偏差]



[1986-2005 年平均に対する世界平均地上気温の変化予測]



## 見えてきた兆し

### 【ごみ回収システム（ストックホルム市内）】



※カラフルな円筒形の分別用ゴミ箱は地下に繋がっており、分別されたごみはコンピュータ制御によって定期的に、地下に設置されたパイプラインを通して、負圧により時速 70km で処理場に運搬される。生ゴミはバイオガス生産用燃料として使用される

(出典：Envac AB HP)

### 【専門家等の意見】

○色々な活動の中で、CO<sub>2</sub>の削減が指標として出てくれば、身近なものに感じることができる可能性がある。